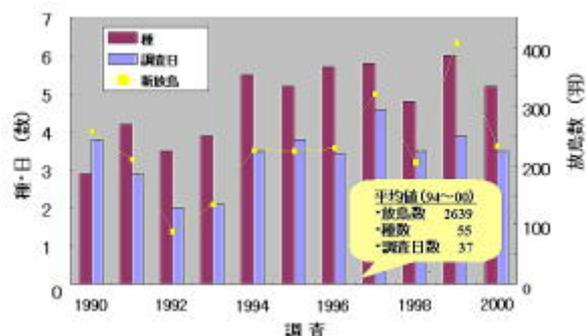


渡良瀬遊水地での鳥類標識調査

人見 潤 (日本鳥類標識協会・日本野鳥の会)

渡良瀬遊水地は栃木県南部、群馬、埼玉、茨城との県境近くに広がる約3300haにもおよぶ、全国でも有数の規模をほこる湿地です。特にその広大なヨシ原は、希少な植物や昆虫をはじめ、多くの動植物を有する貴重な自然環境となっています。私たちは、その自然環境の実態及び推移を把握することを目的に1990年より当地の標識調査を開始しました。その調査の記録は2002年までにのべ調査日数439日、放鳥種数98種、新放鳥31113羽に達しました(2002年末現在)。



これまで、その放鳥種数が示すように多くの鳥類が当地を利用していることが確認されました。中には探鳥会など**通常の野外観察では記録されることの少ない種**も多く含まれます。例えばこれまで栃木県では稀な旅鳥とされていたノゴマが毎年記録されています。さらに、オオセッカ、ムジセッカ、オガワコマドリ、コホオアカなどが栃木県初記録種として放鳥されました。また、ここ数年夜間の調査にも力を入れ通常の観察ではなかなか記録されないヨタカ、アオバズク、オオコノハズクといった夜行性の鳥類についても毎年少数が当地を通過していることが確認されました。

渡良瀬遊水地における放鳥種および累計放鳥数(1990-2000)

種名	放鳥数	種名	放鳥数	種名	放鳥数	種名	放鳥数
1 オオジュリン	6934	26 ヨタカ	50	51 ムクドリ	9	76 ヘキチョウ	2
2 カシラダカ	5711	27 コジュリン	45	52 ハシボソガラス	9	77 カルガモ	1
3 アオジ	2243	28 キジバト	44	53 エナガ	8	78 コガモ	1
4 カワラヒワ	1958	29 シメ	44	54 ホオアカ	8	79 ヒクイナ	1
5 スズメ	1725	30 ルリビタキ	34	55 ミヤマホオジロ	8	80 オオソリハシシギ	1
6 コヨシキリ	1309	31 アオバズク	33	56 ツツドリ	7	81 ヤマシギ	1
7 ツバメ	642	32 オナガ	31	57 ビンズイ	7	82 オオジシギ	1
8 ホオジロ	634	33 トラツグミ	27	58 ヨシゴイ	5	83 コルリ	1
9 ウグイス	513	34 オオコノハズク	25	59 クイナ	5	84 エゾムシクイ	1
10 ノゴマ	449	35 ノビタキ	25	60 アオゲラ	5	85 エゾビタキ	1
11 ショウドウトツバメ	376	36 キビタキ	25	61 アカゲラ	5	86 オオマシコ	1
12 ツグミ	367	37 ペニスズメ	24	62 カケス	5	87 ニュウナイスズメ	1
13 ベニマシコ	319	38 キセキレイ	23	63 ツリスガラ	4	88 セキセイインコ	1
14 シジュウカラ	278	39 マヒワ	22	64 コジュケイ	4	89 ソウシチョウ	1
15 セッカ	191	40 タシギ	21	65 ハイタカ	3	90 シマキンパラ	1
16 クロジ	179	41 ヒバリ	17	66 カヤクグリ	3	91 キンランチョウ	1
17 オオヨシキリ	156	42 メボソムシクイ	17	67 オガワコマドリ	3		
18 ジョウビタキ	124	43 ミソサザイ	16	68 オオセッカ	3	91種 25400羽	
19 シロハラ	103	44 カワセミ	15	69 ムジセッカ	3	青字: 日本野鳥の会栃木県支部の渡良瀬遊水地での探鳥会で記録がない種 赤字: 栃木県初記録の種	
20 メジロ	96	45 アリスイ	13	70 コホオアカ	3		
21 アカハラ	82	46 マキノセンニュウ	13	71 サシバ	2		
22 タヒバリ	80	47 コノハズク	12	72 アカモズ	2		
23 モズ	75	48 ササゴイ	11	73 クロツグミ	2		
24 トラフズク	59	49 シマセンニュウ	11	74 マミチャジナイ	2		
25 ヒヨドリ	56	50 アトリ	9	75 ウソ	2		

回収記録についても、16種256例が得られました(2000年末現在)。移動先は北海道から九州、さらに海外にまでおよび、多くの知見が得られました。国内の移動では、オオジュリンを中心とした、東北

渡良瀬遊水地回収記録

種名	1990-2000		合計
	DR	NDR	
1 日本	1	1	2
2 日本	1	1	2
3 ヨシノガハシ	1	1	2
4 ツグミ	1	1	2
5 ツグミ	2	1	3
6 ツグミ	1	1	2
7 ツグミ	2	2	4
8 ツグミ	1	1	2
9 ツグミ	1	1	2
10 ツグミ	1	1	2
11 ツグミ	1	1	2
12 ツグミ	4	6	10
13 ツグミ	10	138	148
14 ツグミ	1	1	2
15 ツグミ	1	1	2
16 ツグミ	1	1	2
合計	31	154	185

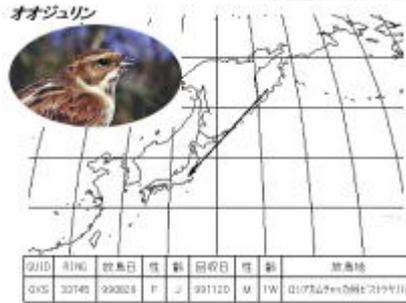
DR: 同一シーズン内回収記録
NDR: 経年または異なるシーズン回収記録
: 海外から運来されたもの



22都道県+3外国より回収

地方からの太平洋岸を南下するルートその他、日本海側からも複数の回収記録が得られ、本州横断の渡りルートの存在も示唆されました。

海外における回収記録は渡良瀬放鳥のオオヨシキリ、アオバズクがそれぞれ香港、フィリピンで回収されており、1999年にはカムチャッカ放鳥のオオジュリンが渡良瀬で回収されました。



このように、観察だけでは得られにくい、渡良瀬遊水地が渡りの中継地としていかに重要な役割を果たしているかという事例が標識調査によって蓄積されつつあります。この後我々は、調査の精度をさらに上げることとともにこのデータをいかに渡良瀬遊水地の保護に役立てていくかということも重要な課題と考えています。

[このページのトップへ戻る](#)

[調査の概要と意義へ戻る](#)